

2011年4月8日新しい公共推進会議での佐野発言（議事録より）

## 東日本復興の4原則と「ともに生きよう！東日本」キャンペーン

○佐野委員 さっき仮設住宅のお話が出たんですけれども、阪神淡路の教訓をくんでコミュニティとか知り合い同士が住むというふうなことが強調されているんですが、建設がむちゃくちゃ立ち遅れているんですね。だから、現地に行くとそれどころじゃない。とにかく戸数をいかに早く確保するかというふうになっているんですね。ですから、この会議では考え方や原則というか、それらをしっかり議論できればいいのかなと思って、4点ばかり、私の感想を申し上げます。

やはり被災者、被災地の視点から考える。彼らに主体者、当事者になっていただくということが第1点。

第2点は人とのきずな、コミュニティを生かすような快適でランニングコストが低い地域づくりの原則ですね。仮設住宅づくりから、まち、東日本という地域に広げたい。

それから、3番目はやはり原発問題に示されたエネルギーはじめ、都市や生産の機能など、分散と多様という原則が要るんじゃないかということです。

それから、私は阪神淡路とは全然規模が違うと思うんです。だから、「阪神淡路では」と言うべきではなくて、一から知恵を出さないといけない。そういう意味合いでは、既存のルールや制度に縛られない特区的な対応が東日本全域で要るんじゃないか。とり分け復興の主体をどうしていくのかというときに、例えば現地では各地域で違いがあるという話でしたが、各地である種の震災復興のネットワークセンターをつくり、自治体が末端でめっちゃくちゃに被災しているわけですから、それらが臨時自治体になってもいいのじゃないか。それぐらいの思い切った復興のための主体をつくっていくということを考えたかどうかということです。

それから最後に一言だけ、昨日まで仙台にいたんですけれども、まちに「がんばれ日本」、「がんばろう東北」という言葉があふれているんです。被災地で話を聞きますと、やはりがんばれというのは被災者には辛いと言うんです。東北は今、何とか立ち上がりたいと思って皆、一生懸命やっているし、私は否定するつもりは全然ないんです。けれども、長期に考えたときにそういうスローガンなどと並んで、もっとソフトなものも考えていったらどうか。

そういう意味合いでは、「ともに生きよう！」はどうか？「ともに生きよう！東日本」、「ともに生きよう！東北」、そして「ともに生きよう！宮城」・・・、これは被災地外からや我々の呼びかけであると同時に被災者の人たちが隣の人にも話しかけられるような、何かそういうスローガンのあり方についても議論できたらというのが感想です。